



TCP MSS の設定

- [TCP MSS の設定について](#) , 1 ページ
- [TCP MSS の設定 \(GUI\)](#) , 1 ページ
- [TCP MSS の設定 \(CLI\)](#) , 2 ページ

TCP MSS の設定について

トランスミッションコントロールプロトコル (TCP) スリーウェイハンドシェイクにおけるクライアントの最大セグメントサイズ (MSS) が、最大伝送単位で処理できるサイズよりも大きい場合、スループットの低下およびパケットのフラグメンテーションが発生する場合があります。コントローラ ソフトウェア リリース 6.0 以降のリリースでこの問題を回避するには、コントローラにjoinしているすべてのアクセスポイントまたは特定のアクセスポイントにMSSを指定します。

この機能を有効にすると、アクセスポイントがデータパスのワイヤレスクライアントと送受信するTCPパケットのMSSを選択します。これらのパケットのMSSが設定した値またはCAPWAPトンネルのデフォルト値よりも大きい場合、アクセスポイントはMSSを、設定された新しい値に変更します。

TCP MSS は、ローカルモードの AP でのみサポートされます。

TCP MSS の設定 (GUI)

- ステップ 1** [WIRELESS] > [Access Points] > [Global Configuration] の順に選択して [Global Configuration] ページを開きます。
- ステップ 2** [TCP MSS] の下にある [Global TCP Adjust MSS] チェックボックスをオンして、コントローラにアソシエートされているすべてのアクセスポイントの MSS を設定します。

(注) 有効な範囲は次のとおりです。

- IPv4 TCP : 536 ～ 1363 バイトの範囲内。
- IPv6 TCP : 1220 ～ 1331 の範囲内。

CAPWAP v6 AP では、1220 未満または 1331 より大きい TCP MSS 値は無効です。

TCP MSS の設定 (CLI)

ステップ 1 次のコマンドを入力して、特定のアクセス ポイントまたはすべてのアクセス ポイントの TCP MSS を有効または無効にします。

config ap tcp-mss-adjust {enable|disable} {Cisco_AP | all} size

size パラメータの値は、IPv4 の場合は 536 ～ 1363 バイト、IPv6 の場合は 1220 ～ 1331 バイトです。デフォルト値はクライアントにより異なります。

(注) 有効な範囲は次のとおりです。

- IPv4 : 536 ～ 1363 バイトの範囲内の値を使用します。
- IPv6 : 1220 ～ 1331 バイトの範囲内の値を使用します。

CAPWAP v6 AP では、1220 未満または 1331 より大きい TCP MSS 値は無効です。

ステップ 2 次のコマンドを入力して、変更を保存します。

save config

ステップ 3 次のコマンドを入力して、特定のアクセス ポイントまたはすべてのアクセス ポイントの現在の TCP MSS 設定を表示します。

show ap tcp-mss-adjust {Cisco_AP | all}

以下に類似した情報が表示されます。

AP Name	TCP State	MSS Size
-----	-----	-----
AP-1140	enabled	536
AP-1240	disabled	-
AP-1130	disabled	-